

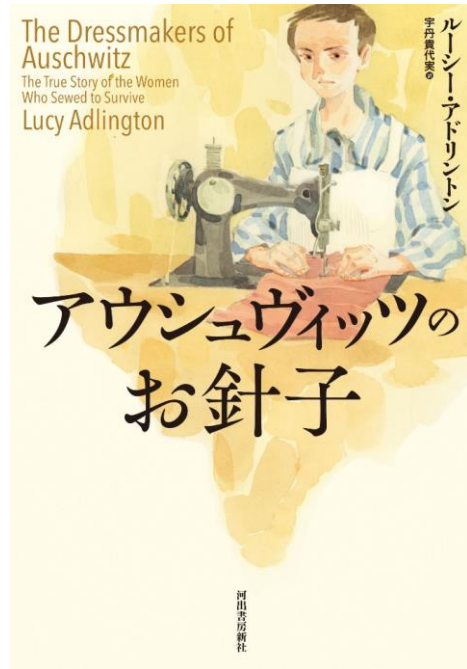
## こんな本を読んできました

アウシュヴィッツ強制収容所、多くの命が失われたこの場所に、驚くべきことに“高級服仕立て作業場”がありました。この本は、この作業場でお針子として働かされた女性たちが、自分の持ちうる限りの技術、知恵、そして友情や愛情をもってして地獄の様なこの地で生き延びようとした真実の記録です。

またこの本では、「衣服」が人の心にどんな影響を与えるかが描かれていて印象的です。強制的に集められ、衣服をはぎとられることで、人としての尊厳を奪われた彼女たちにとって、清潔な衣服を着ることは「人間らしくある」ということに等しく、生きる力となりました。

綴られる現実は何れにも残酷で、ページをめくる指は軽やかに、とはいきません。けれど、国際情勢が不穏な今こそ、心に留めておきたい一冊です。

タイトル アウシュヴィッツのお針子  
著者 ルーシー・アドリントン／著  
宇丹 貴代実／訳  
発行 河出書房新社



呉市の歴史と関わりの深い「海」に関する所蔵資料を紹介します。



海の文庫

タイトル 海のものごたり 海藻押し葉で紡ぐいのち  
著者 ヘレン・アポンシリ／作、リリー・マレー／文  
井上 舞／訳  
発行 化学同人

「海藻押し葉」を見たことがありますか？この本に描かれている海岸、熱帯、外洋、極海に住まう生きものたちはすべて、海の中で揺らめいている海藻や藻、海辺に咲いている花が、押し葉、押し花となり、生み出されています。目をこらしてみると、海面やその上を飛ぶ雄大な海鳥、海中を泳ぐ巨大なシロナガスクジラも、硬い貝殻に珊瑚礁も、小さく柔らかな海藻や藻、花びらで美しく形成されています。

ページを開けば、色鮮やかなクマノミ、海の上を跳ねるイルカやトビウオが悠々と泳いでいます。傍らには、描かれている海の生きものの生態についての説明もあります。よく知っているつもりの生きもののもことでも、新たな発見があるかもしれません。海藻や花によって広がる色鮮やかな海の世界から、涼しさと癒しをもらいませんか。